

ファーストレディー競演



羽田空港に到着したメラニア夫人(25日)＝松本拓也撮影

メラニア夫人 色や柄生かし華やか

令和初の国賓として28日まで来日していた米トランプ大統領夫妻。ファーストレディーの装いを専門家に聞いた。

の筆者で服飾史家の中野香織さんは「白のパイピング(縁取り)のあるテーラードカラーで知的な雰囲気メラニア夫人と、かわいらしくポップな印象の昭恵夫人。装いは対照的」と話す。

大相撲観戦でのメラニア夫人は、フランス生まれのデザイナー、ローラン・ムレのドレス。「鎖骨の見えるカットが特徴的。華やかで女性らしいチェリーピンクが、魅力を引き立てている」と山口さん。

「控えめな色や、ケープカラーから、暑い中でも伝統を重んじて、肌の露出を最小限にしようとの気配りを感じた」という。中野さんによると「外交の場では相手国に敬意を表す装いや、自国の製品を身につけるのが通例」。皇居や迎賓館を訪れたメラニア夫人は、米のキャロリーナ・ヘレラの白ドレスに赤のピンヒール。中野さんは「大統領は赤のネクタイ、夫人は白と赤で日本への敬意がうかがえた」。

昭恵夫人は日本をまとい、メラニア夫人は自らを美しく見せる服に重きをおいたよう。個性の違いが国柄なのか、2人の違いが服から見えた。

メラニア夫人が羽田空港到着時に着たのは、米のブランド「カルバン・クライン」のシャッドレス。風景を映したポストカード柄だ。ファッション誌「モードエモード」編集長の山口八千代さんは「個性的な柄のシャッドレスは爽やかな印象。ウエストに細いベルトを締め、スタイルのよさが際立っていた」と評する。「森ビルデジタルアートミュージアム」を訪れた際は、伊の高級ブランド、ロロ・ピアーナの紺のジャンプスーツ。同行の安倍昭恵夫人は、京都の丹後ちりめんを使った水玉柄ワンピース。安倍首相の地元、山口県が拠点の服飾メーカー「詩仙堂」のものという。

本紙連載「スタイルアイコン」

昭恵夫人 「和」生かしポップに



森ビルデジタルアートミュージアムを視察するメラニア夫人(左)と昭恵夫人(26日、A.P)

大相撲夏場所千秋楽で、升席で観戦する。(奥左から)安倍首相、トランプ米大統領、メラニア夫人、昭恵夫人(26日、両国国技館で)



迎賓館にそろって入るメラニア夫人(左)と昭恵夫人(26日午前)＝大原一郎撮影